

ニカラグア定期報告（2016年3月）

2016年4月
在ニカラグア日本大使館

【要旨】

〈内政・外交〉

内政では、民主主義活動家であるボニジャ・ニカラグア民主主義運動代表が武装グループからの襲撃を受け、同代表は与党関係者による暴行であると訴えた。

外交では、5日、オルテガ大統領はマドゥーロ・ベネズエラ大統領主催のチャベス前大統領の3回忌式典に参列した。また、17日、ICJの対コロンビア係争に関する先決的抗弁への判決が下った。

〈経済〉

2日、政府はTPP加盟を検討するため国内各セクターとの協議を開始した旨発表した。また、30日、当地IMF常駐代表は、ニカラグア事務所閉鎖の決定につき発表した。他方、民間セクターでは、ワイルドHKND社顧問が運河計画の進捗等につき述べた。

【主な出来事】

1 内政・外交

(1) 対コロンビア係争に係る先決的抗弁に関する国際司法裁判所判決

17日、政府は同日発表の「ニカラグアの海岸から200海里を超える領域における大陸棚の境界画定」事案及び「カリブ海における主権及び海域の侵害」事案に関するコロンビアによる先決的抗弁に係るICJ判決につきプレスリリースを発表した。同プレスリリースによると、コロンビアのニカラグアの領海侵害に関しては、ICJはコロンビア当局の高官及び同国軍幹部が帰属外の水域において管轄権を行使し続けた結果として、領海の侵害について係争があるものと認めた。また、200海里を超える境界画定については、ICJは大陸棚限界委員会が必要とする情報をニカラグアは提出しており、海洋法条約に定められた義務を果たしていると認めた。アルグエジョICJ係争ニカラグア法務団代表は、「法的に、全て公に我々の主張を提示する扉が開かれた。ICJは大陸棚延長につき審議するにあたり邪魔になるものはないと結審した。ICJは（2012年に）海上の国境を定め、コロンビアはそれを遵守せず侵害している。それは、コロンビア・ニカラグア間の条約があるにも関わらず違反するのと同じである。」と述べた。また、2012年のICJ判決では200海里まで、つまり排他的経済水域（EEZ）が認められたに過ぎないが、問題は200海里を越える大陸棚の延長についてであり、これまでICJは解決してこなかったと述べた。

(2) オキスト大統領秘書官の訪日

12日～18日、オキスト大統領秘書官は日本を訪問した。同秘書官は、西村衆議院内

閣委員長兼日ニカラグア友好議連会長と両国の経済及び協力関係の強化のため様々な関心事項につき協議した。同会合には、アラナ在京ニカラグア大使、岸衆議院外務委員長、大塚自民党国防部長、土屋自民党広報戦略局長、高瀬外務省中南米局長等が同席した。オキスト秘書官は会合への友好議連メンバー等の出席に感謝を述べつつ、約15,000人を雇用する矢崎ニカラグアを筆頭とした日本企業のニカラグアでのプレゼンスにつき強調した。また、同秘書官は、日本の経済協力、特に道路や橋梁建設の重要性及びニカラグアの経済成長への貢献を強調するとともに、オキスト秘書官は土屋議員に対し、セラヤ・セントラル病院建設への資金協力の実現に対する前向きな理解への謝意を表した。さらに、運河委員会メンバーであるオキスト秘書官は、両大洋間運河建設計画への日本企業の参加可能性につき説明した。同秘書官は日本滞在中、同会合の他、複数のセミナーやフォーラムに参加した。

(3) 民主主義活動家に対する暴行事件の発生

2月26日、ボニジャ・ニカラグア民主主義運動(MDN)代表が、MDNが実施した本年11月の大統領選挙に関するアンケート結果を最高選挙管理委員会(CSE)及び報道機関に提出するため自宅を出たところ、武装した5人組に刃物等で襲撃され、重傷を負って病院に運ばれた。また、ボニジャ代表に対する暴行を止めようとしたボニジャ夫人も負傷した。3月末時点で、武装集団は逮捕されていないが、同代表は、武装集団は与党関係者であると主張している。MDNは、透明性ある選挙、国内外の選挙監視団の派遣を求める活動を推進する目的でボニジャ代表が結成した市民社会グループである。

(4) オルテガ大統領のチャベス元ベネズエラ大統領3回忌式典出席

5日、オルテガ大統領はマドゥーロ・ベネズエラ大統領主催のチャベス元ベネズエラ大統領3回忌式典に出席した。同式典においてオルテガ大統領は、「革命は、「選挙」という手段に対する国民の反乱によってのみ成立する。革命勢力及び進歩主義者にとって自由選挙というものは存在しない。我々はそうした戦いを続けていく。なぜなら、我がアメリカで選挙が実施される度に、グローバルな資本主義や米国及びNATOといった勢力が存在している。ニカラグアや革命勢力が存在する国において帝国の手先による内政干渉が行われ、右派勢力の結集を呼びかけ反革命的なテロの経験を植え付けようとしている。」と述べ、自由選挙を強く批判した。

2 経済

(1) TPP加盟に係る国内協議の開始

政府は民間セクターとの間で、TPP加盟によるニカラグアへの利益につき協議を開始した。ムリージョ大統領府広報官によると、オルテガ大統領は既に民間企業最高審議会(COSEP)及び労働組合等に同テーマに関する意見を求めていた。アゲリCOSEP会長は、政府の取り組みを評価すると共に、政府のTPP加盟の検討を支援する旨公式に発表すると述べた。また、ガルシア・ニカラグア衣料産業協会会長はDR-Cafetaにない

利益がTPPによって得られると述べた。加盟すれば、ニカラグアは米国への輸出品生産のため、いずれのTPP加盟国からでも原材料を輸入できるようになる。また、外国からの直接投資の誘致の可能性が広がる。ムリージョ大統領府広報官は、ニカラグアは市場開放を続け、より効率的で生産的となる、競争力をつけるための提案や取り組みにおいて、民間企業、生産者、企業家、労働者を支援していかねばならないと述べた。また、レジェス中銀総裁は、ニカラグアはTPPのような巨大市場の利益を活用できる程に輸出業者としてのキャパシティーを強化していると述べた。アラナ元中銀総裁は、「TPPへの加盟は、当国を他の加盟国と横並びにするため、民間セクターには可能であれば加盟するのが良いとの考えがあると思料する。いずれにしても、ニカラグアが加盟しようとしまいと、ニカラグアはTPP加盟国と競うために競争力をつける10年の猶予はある。我々はTPPへの加盟の是非を決め、最終的にはTPPの競争力に直面する。特に北米市場に向けた輸出の競争力を強化し続けることは重要である。」と述べた。

(2) IMFニカラグア事務所の閉鎖

30日、IMFはマナグアのIMF事務所を7月末で閉鎖すると発表した。サルドウエンド当地IMF常駐代表は、「当地事務所の閉鎖はニカラグアがマクロ経済の安定を維持していること、及び2011年の拡大信用供与ファシリティの終了以降、経済成長していることを受けて決定したものである。」と述べた。レジェス中銀総裁は、IMFの当地事務所閉鎖は、当国の良好なマクロ経済及び財政状況の結果、IMF内での投票により決定した、ニカラグアは継続して経済成長を続けており、公的財政運営も順調である、また、公的負債は減少傾向にあると述べた。「サ」代表は、IMFはニカラグア事務所は閉鎖するが、20年余続けてきた緊密な協力とオープンな対話は今後も継続する、IMFは定期的な訪問により、質の高い政策のための助言及び技術支援を継続すると約束した。「サ」代表は、IMFは3つのメカニズムにより技術支援及び助言を継続するとし、一つは、IMFの4条協議でIMF西半球担当者がニカラグアを訪問する。2点目は、ニカラグアへの技術支援、3点目は、ニカラグアへの追加的技術支援プログラムの協議に中銀総裁及び財務大臣がワシントンに訪問する機会の利用である。8月以降、ラ米・カリブにおけるIMF事務所は6カ所（グアテマラ、ホンジュラス、ハイチ、ジャマイカ、ブラジル及びペルー）となる。ニカラグアは1994年から、経済プログラムの終了した2011年までの間に4件の中期財政支援を受け、約222百万ドル相当の310.8百万SDRを使用した。2011年から2015年の間では、政府によると、経済成長は堅調で、インフレ率は一桁、財政赤字は少なく、公的負債は減少したため、政府はIMFの経済プログラムを必要としなかった。さらに、国内外からの民間投資が活発となり、物及びサービスの輸出も増加した。

(3) 両大洋間運河建設計画：HKND社幹部へのインタビュー

HKND社のワイルド筆頭顧問は当地紙のインタビューに答え、本体工事は、本年8月から9月に終了する必要な調査を終えた後となり、第一段階として太平洋側の港湾工事を開始する、右工事には燃料ターミナルと船の棧橋建設を含むと述べた。2016年は、大量

の貨物及び運河本体建設に必要な特別機材を扱う複合港の建設を開始する。同顧問は、運河建設は主にロジスティック関連の工事であり、太平洋岸港湾工事の第一フェーズは、運河計画を迅速で効率的に運ぶようにする、2016年は運河の主要工事、浚渫を開始するための調査や設計の前進と終了にとっても鍵となる年であると述べた。さらに、土木工事に係る設計作業（実施中）、前述の航空地質調査（終了段階）、高精細写真撮影（終了段階）等や考古学調査（第1フェーズ終了）を含め多くの調査が既に終了或いは非常に前進している他、契約企業による水収支と塩分バランスのさらなる調査、地震と地質の詳細調査、閘門のための予備設計作業がまもなく開始する、考古学調査第2フェーズは3月の末から開始予定であり、ボーリング調査は4月或いは5月に開始する予定であると述べた。

<主要経済指標>

	2016年			2015年	2014年
	3月	2月	1月		
インフレ率（前年同月比）	3.7%	3.4%	3.2%	5.9%	5.1%
貿易収支(百万ドル)	未発表	△271.2	△234.3	△3,012.5	△2,820.3
輸出 FOB(百万ドル)	未発表	190.0	156.5	2,421.7	2,632.7
輸入 FOB(百万ドル)	未発表	461.2	390.8	5,434.2	5,452.9
海外送金（百万ドル）	未発表	103.4	91.2	1,193.4	1,135.8
外貨準備高(百万ドル)	未発表	2,480.5	2,404.4	2,492.3	2,276.2

（出典：ニカラグア中央銀行）